



林 声

2016

11月号



シイタケほだ木の伏せ込み作業を行う、倉敷美しい森づくりの会会長の笹田富夫（ささだ とみお）さん。倉敷美しい森づくりの会発足当時から地域の里山林整備等に携わられ、21年目になります。今も現役でご活躍中です。（詳細はP 2に記載）

目 次

岡山・森林列伝（笹田富夫さん）……………	2	技能講習会、イベント情報……………	10
がんばる認定事業体（有限会社森岩木材）……	3	林産物市況……………	11
普及指導区の情報（普及推進課）……………	4	事務局からのお知らせ……………	14
ニューフェイスです（平尾勇人さん）……………	5		
教えて先輩！（岸本秀樹さん）……………	6		
研究だより……………	7		
お知らせ（林業普及指導員等中央研修）……………	8		
岡山県みどりの大会・狩猟期間の注意事項……	9		

岡山県マスコット
（ももっち）



岡山・森林列伝
【倉敷普及指導区】

今回は、倉敷地域森づくりの会長として長年、倉敷地域の里山再生に多大なご尽力を頂いている笹田富夫さんをご紹介します。



笹田会長（右端）と参加者の皆さん

笹田さんは、昭和8年生まれの83歳、平成7年の森づくりの会発足時には副会長、平成20年からは会長としてご活躍中です。

新見市草間の出身で、学生時代は野鳥の声で目を覚ますような生活を送っていましたが、就職を機に倉敷へ転居されて環境が一変、自然と野鳥に囲まれた環境がいかに

に大切なものであったか実感されたことが、後の里山再生活動の原点となったそうです。

当時の倉敷は、水島地域のコンビナート開発等が進み、後に健康被害も発生する事態となりました。

その後、倉敷市議会議員となった笹田さんは、環境派議員として県南地域に広がるアカマツを主体とした里山の再生をライフワークとして取り組み、自然と人間との共生のシンボルとしてカワセミを「市の鳥」とする運動にご尽力され、これらの取り組みから平成24年には日本善行章を受章し、秋の叙勲では旭日双光章を授章されました。

現在、議員は引退されていますが、森づくりの会のほかに、日本鳥類保護連盟岡山支部顧問、倉敷の自然を守る会会長を務められており、倉敷地域の森林を含めた自然環境を語る上で欠くことのできない人物です。

インタビューは、10月22日(土)総社市下倉で開催された保育のつどいの現場に訪問して行いました。

当日は小雨の降る肌寒い日でしたが、約20名の参加者のうち半数が女性、ご夫婦や親子で参加の方もおり、地域に根ざしたイベント

であることが解りました。

男性参加者は自前の草刈機やチェーンソーを持参し、事務局である備中南森林組合の金澤参事の指導の下、熱心に保育作業に取り組みされており、植栽や枝打ち等の技術相談や補助事業についての質問も多く、意識の高さを感じました。

今回が2回目の参加という中学生の生徒は、「性に合っている。とても楽しい。」と手ノコによる枝打ちを終了時間まで熱心に続けていました。



枝打ち作業

笹田さんは、先ず緑の中に入ってもらい、森林の気持ち良さを感じてもらおうことが大切と考え、知

り合いの方々には、健康に良いからと会のイベント等に誘うそうです。

枝打ちばしごに登る姿や両手にほだ木を持って運ぶ姿はとも83歳には見えません。

率先して作業を行う会長の人柄や里山再生活動を長年継続する力が、この会の活気ある活動に繋がっていると実感しました。

また、森づくりの会ではもう1箇所、倉敷市酒津の八幡山でも植樹活動などを行っています。

104鈔におよぶ八幡山は、多種多様な植物や、昆虫、野鳥などが生息する自然豊かなところですが、最近では松くい虫によるアカマツの被害が目立っており、松くい虫被害跡地へ桃太郎松や広葉樹の苗木を植栽し、県南地域に広がるアカマツを主体とした里山の景観と生態の維持を目的に活動に取り組まれています。

これからも、若者や親子連れまで幅広く参加できるイベントを企画していきたいと抱負を語っていただきました。

今後、ますますのご活躍を心からご期待申し上げます。

(林業普及指導員 大西俊和)

特集

がんばる認定事業体 有限会社 森岩木材

【勝英普及指導区】

一 はじめに

今回は、「有限会社 森岩木材」の代表取締役森岩岳彦さんにお話を伺いました。

(有)森岩木材は、美作市宮本(旧大原町)に事務所を置き、地元美作市を中心に素材生産業をはじめ製材業、建築業を営んでいます。



右から2人目が森岩岳彦さん
美作市後山の山土場にて

二 会社の概要

(有)森岩木材は、昭和45年に森岩さんの父親が創業され、当初は一年の約半分を素材生産業、残りを製材業を行う会社だったとのこと。幼かった頃の森岩さんは父親に連れられて山仕事に行っていたと話していました。その後徐々に建築業に軸足を移し、森岩さんが青年となり会社に入った頃には

素材生産は少なかったようですが約10年前から高性能林業機械の導入を進め、本格的に素材生産を再開しました。

「森林・林業の再生の一翼を担う」、「地域で愛される企業を目指す」ことを経営の理念としています。



素材生産・住宅建築

三 現在の事業の概要

素材生産業は4名の作業班員で自社所有の管理と主に請負による間伐作業などを行っています。

また、森岩さん自らが二級建築士であり、社員の二級建築士であり、社員の二級建築士であり、社員の二級建築士

理技士とともに自社製材品などによるリフォームや住宅建築を行っています。かつては、施主の山から伐出した木材を自社で製材して家を建てることも多かったため大工も雇用し、まさに伐採から建築までの全てを自社で行っていたようです。現在、設計・監理以外は請負に出していますが、地元産の木材を多用した住宅づくりに心がけています。



作業道の作設状況

四 今後の事業展開について

(有)森岩木材では、若手作業員を採用し、森林作業道作設オペレーター育成研修をはじめとした各種研修に積極的に参加させるなど、技術者の育成にも努めておられます。また、森岩さんは勝英木材同業組合の副組合長でもあり、昨年度から美作市が取り組んでいる「美作市林産物生産委員会」の未利用

間伐材によるバイオマス利用にも中心的な役割を担うなど、地域の発展を意識した取り組みを行っています。



薪ボイラー用の薪製造状況

五 終わりに

森林施業から建築までを一体的にカバーする(有)森岩木材の姿勢を「二貫製材」という言葉で語っておられたのが印象的でした。明るく朗らかな森岩さんは、仕事の話になると真摯で誠実な対応をしてくれまます。製材業としての父親のご意志を受け継ぎつつ、地域で愛される総合木材企業としての益々のご発展を期待しています。

(林業普及指導員 牧本卓史)

普及情報
チェンソー作業に関する
ガイドラインについて



林業の現場で発生する労働災害の多くがチェンソー作業に起因していることから、厚生労働省では、「チェンソー作業による伐木等作業の安全に関するガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）を昨年の12月に、また、その運用に当たって「ガイドラインの留意事項」（以下、「留意事項」という。）をそれぞれ定めています。運用開始から1年近くが経過したところですが、特に重要な部分について改めて確認したいと思います。

一 目的及び適用範囲

平成26年度に、全国で発生した林業死亡災害のうち7割近くがチェンソー作業に係属しており、こうした状況を改善するために、このガイドラインが制定されています。適用範囲は、林業の現場で行うチェンソーを用いた伐木及び造材作業（以下、「伐木作業」という。）です。

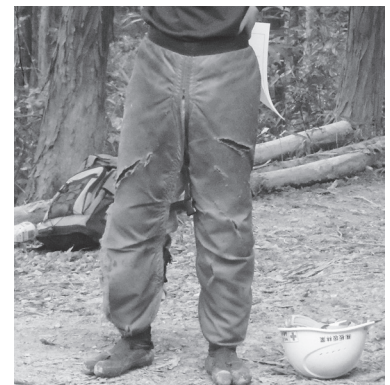
二 保護具等

伐木作業に関する保護具等については、労働安全衛生規則で保護帽、いわゆるヘルメットについては従前から規定されていますが、ガイドラインでは、チェンソーの切創災害を防止するため、防護衣の着用を推奨しています。この中で、防護ズボンについては「前面にソーチェンによる損傷を防ぐ保護部材があるものを使用すること。」としています。

林業事業者の皆さんを対象とした研修、特に、緑の雇用研修などでは新規就労者を中心に、近年、防護衣を着用している人が増え、安全に対する意識が高まってきたと感じています。



アラミド繊維の停止効果



ダメージを受けたチャップス

ただし、チャップスについては、ガイドラインに適合しているとは認められておりません。このため、現在、林野庁においてチャップスの安全性に係る実証試験が実施されており、正式に適合が認められるのは、この試験結果後となりますので、検証結果が待たれるところです。

なお、防護ズボン等には、アラミド繊維が縫い込まれていますが、一度、ダメージを受けたものは効果が無くなっているため、新しいものを着用してください。

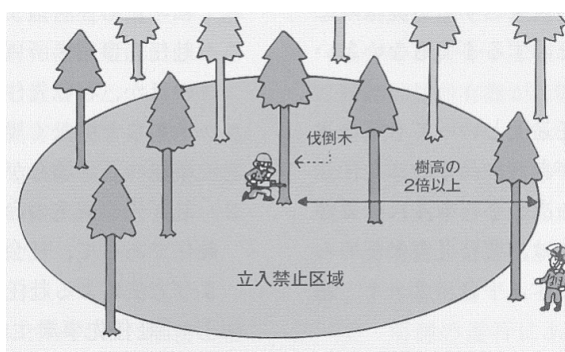
三 立入禁止距離の改正

伐倒作業時に、従前は、立木の樹高の1.5倍が立入禁止区域でしたが、新基準では、諸外国の基準を踏まえた結果、樹高の2倍が

伐倒者以外の立入禁止区域とされました。なお、隣接して伐倒作業を行う場合は、従前同様2.5倍が立入禁止区域となっています。

四 備えあれば憂いなし

安全で機能的な衣服を身に付けることは、労働強度の低減にも繋がります。最近の防護衣等は外国



立入禁止区域 樹高の1.5倍→2倍へ

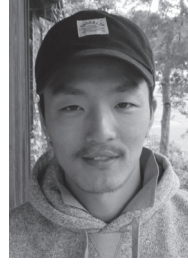
製も含め、とても機能的でファッショナブルです。新規就労者だけでなく、ベテランにも着用を徹底していただきたいと思います。

（普及推進課 林業普及推進班）

特集 『ニューフェイスです』

作州かがみの森林組合

平尾 勇人さん (24歳)



平成24年5月から作州かがみの森林組合上齋原支所の

現業職員として、現場作業をされている平尾さんにお話を伺いました。

一 経歴

岡山県勝央町で生まれ育ち、現在は津山市内に居住しています。森林組合へ就職する前は、林業とは全く関係の無い仕事をしていましたが、祖父母が鏡野町(旧上齋原村)へ居住していたことや、鏡野町の自然の素晴らしさに触れ、作州かがみの森林組合の現業職員として就職しました。

現在、奥さんと子ども(男の子4人)の6人家族です。

二 仕事の内容

現在所属する作州かがみの森林組合上齋原支所の現業職員は9名

で、その中で一番若く、主に班長以下3名で作業を行っています。

作業班では主に搬出間伐を実施しており、チェーンソーによる伐倒をメインに作業をしています。

最近では車両系建設機械運転者の資格を取得し、グラップルによる木材の積み込み作業等を行っています。



班長からの指導を受ける平尾氏(左)

その他にも、作業区域でポケットコンパス等による周囲測量も行っています。

また、上齋原支所において積雪の時期には、恩原スキー場での仕事もあり、他の地域では経験の出来ないことで、気分転換にもなっています。

三 仕事の感想

最初は分からないことだらけで不安でしたが、実際に作業をしてみるととても楽しく、やりがいのある仕事でした。

また、作業班の先輩方にも優しくして頂き、解らないところは丁寧に教えていただきました。

チェーンソー伐倒では、なかなか思った方向へ倒せませんが、思いどおりにできたらとても清々しい気持ちになります。

自然の中の作業は、厳しい状況の時もありますが、現場状況も日々変わり、新しい発見もあったりと、とても魅力的な仕事です。

今後は、伐倒技術を磨くとともに様々な資格を取って、高性能林業機械のハーベスタやフォワーダ等の操作や森林作業道の作設も出来るようになりたいと思います。

四 家族とのふれあい

休日は子どもがまだ小さいので、なかなか自分の時間が取れません。今は子供とふれあうことと、成長が一番の楽しみです。もう少し子どもが大きくなったら、家族で趣味のドライブに行きたいと思っています。

五 支所長さんから一言

若いだけあって、仕事の要領も良く、飲み込みも早いと現場の作業員から聞いています。

森林組合の期待の星として、今後も頑張って貰いたいと思います。

六 おわりに

お忙しい中、快く取材に応じて頂きました。

平尾さんの益々のご活躍を期待しています。

(林業普及指導員 坂前清治)



現在、ハーベスタ操作の練習中

特集

『教えて先輩!』

岡山森林組合

岸本 秀樹さん (35歳)



本秀樹さんです。

今回、ご紹介する先輩は、岡山森林組合にお勤めの岸

一 経歴

吉備中央町に生まれ、岡山市の高校を卒業後、市内の農協に就職し主に共済業務に携わっていました。しかし、転勤も多く、地元で働きたい気持ちが強くなり、28歳の時に今の職場へ転職し、今年で7年目を迎えました。祖父と椎茸を採りに行くなど、幼い頃から山に親しんでいたことから、林業には漠然と好印象を持っていました。

二 仕事内容

1年目は林産班に所属しチェーンソー、スイングヤーダなどを操り、集材作業を行いました。2年目からは事務職となり、造林補助事業や森林地域活動支援交付金業

務などを担当しています。

一番の課題として取り組んでいるのは、県南でも、やはり間伐の推進です。組合員に喜んでもらえる間伐施業をするために、日々、管内の森林を走り回っていますが、小規模所有者が多いため、間伐作業を集約するのは苦勞します。それでも、やつとこのことで、地元を離れた所有者を探しだし、手入れの必要性や経費の説明をしながら施業の働きかけをして、間伐ができた山を見た時は、とても充実した気持ちになります。

また、切り捨てか搬出か、どの補助事業を活用すれば有利かなど、責任も大きく、組合員のことを考えると悩むこともよくあります。

三 後輩へ

7年のうちに2名の後輩ができました。生意気を言うようですが、2人には、もっと責任感と自信を持って仕事に取り組んでもらうとともに、優先順位をつけて当たって欲しいと思います。

私に対しても、不平不満を含めた意見をもっと出してもらい、お互いが改善し続けることが、組合のためにも、組合員のために

もなると考えています。

一方、これから林業関係の仕事に就こうと考えている方の中には、林業は危険というイメージを持っている方もいると思います。私も、今までに2度の大きな怪我をしました。しかし、これは安全作業の基本を怠ったためで、適切な安全作業をしていれば、防げた怪我でした。事故の発生は、安全対策を行うことにより、限りなくゼロに近づけることができます。

こうした基本的なことを学び実行すれば、山の中での仕事はとても楽しいものとなりますので、ぜひ、我々と仲間になって一緒に働きましょう。

四 今後は

加茂川地区を主に担当してきたので、「加茂川地区の所有者境界のことは俺に任せろ!」という自信は持っています。他の地区は、まだ自信がありません。もっと、山を見て回り、早く、管内全体の森林を把握したいと思います。

また、森林組合の職員は山のプロとよく見られます。山の仕事にもいろいろあり、木を育てたり、伐採するだけでなく、時には、木

の名前や特徴を尋ねられることもあります。ところが、私は樹木判定が苦手でなかなか答えることができません。これからは、この苦分野を克服したいと思います。そして得た知識や経験を先輩に伝えて行きたいと思っています。



仕事風景

五 最後に

お忙しい中、快く取材に応じていただきありがとうございます。私も樹木判定の勉強中で、仲間が欲しいと思っています。いつもフレンドリーな岸本さんと一緒に研鑽を積みみたいと思います。今後、ますますのご活躍を期待しています。

(林業普及指導員 丸山善之)

研究だより
きのこ創薬

一 はじめに

今年、県内では、毒きのこの「クサウラベニタケ」の食中毒がありました。食用の「ハタケシメジ」との誤認でした。また、猛毒の「カエンタケ」も、数例報告されています。分類が未完成であることも影響し、普段、見慣れないきのこを見分けるには、経験を積んだ専門家の助言が欠かせません。環境によって、きのこの色や形態、大きさが変化するうえ、間違えた時の危険性が高いためです。

ちなみに、子実体（きのこ）が極めて小さいものを「カビ」、大きいものを「きのこ」と呼び、生物学的には、両者の間に、隔たりはありません。

二 研究の背景

ツキヨタケやカキシメジなど、県内にも多くの毒きのこが発生しますが、昔の図鑑に、食用と記載されたきのこも、毒きのことして、再認識されつつあります。例えば、アミガサタケ、キシメジ、シモコシ、クロハツ、スギヒラタケ、ナラタケ、

ヌメリイグチやチチアワタケなどが挙げられ、症状の個人差も大きいことから、今後にも注意する必要があります。

きのこの毒成分や、その症状については、医学分野で研究されました。また、有機物の分析能力が向上したこと、今後、様々な毒成分が発見される可能性が高まっています。

一方で、食用のシイタケは、エリタデニンやレンチナン、エノキタケやマイタケ、キクラゲのβ-Dグルカンなどの有益な成分が発見されるなど、きのこの成分が注目されるようになりました。

三 最新の研究

その中で、コウタケ（写真1）の抽出物に、強力な抗ガン作用を持つ成分が発見され、その人工栽培の成否に、医学分野の期待が集まっています。コウタケは、マツタケと同じく、樹木を宿主とする菌根性きのこであり、県内でも、特産品として販売されています。生態もよく解っておらず、菌糸の培養も難しいきのこではあります。その効果に、科学的な裏付けがあることから、人工栽培に成功すれば、貴重な特用林産物に成り



写真-1 コウタケ

得ることが予想されます。

森林研究所では、従来からマツタケの研究に取り組んでいます。これまでに、アカマツ特有のデンブンを培地に添加することにより、マツタケの菌糸が、培地から気中に立ち上がり、菌糸の束を形成する現象を発見しています（写真1-2）。

これは、きのこが子実体を形成する時の、ごく初期に起こる現象と考えられたことから、子実体の形成を目標に、さらなる改良に取り組んでいます。また、この培地を利用し、アミタケやシヨウロ、ホンシメジ、ポルチーニといった菌根性きのこの培養にも成功しています。前述のコウタケも、この

技術を応用することによって、培養や人工栽培が、可能になるかも知れません。なお、この培養方法は、岡山県独自の技術として特許出願し、現在、公開されています（特開2015-1159779）。



写真-2 マツタケの気中菌糸

四 林業への展開

植物のデンブンは、それぞれの種に特有のもので、人工的に作る事ができません。そのため、デンブンの製造には、樹木の育成が必ず必要となります。マツタケだけでなく、健康の維持に役立つきのこの栽培と、樹木デンブンの生産を結びつける林業の展開を目指し、研究を進めます。

（森林研究所専門研究員 藤原直哉）

平成28年度林業普及指導員等
中央研修を開催

一 はじめに

この研修は、林業の普及活動に対するニーズが多様化している中、効果的な普及活動を進めるため、林業普及指導員が一同に会し、研修や活動の報告、最新技術の情報交換及びグループ討議を通して林業普及指導員の資質向上を図ることを目的に実施しました。

今年度は平成28年8月5日(金)に、ピュアリティまきび(岡山市)で県林業関係職員45名が参加して開催されたので、その概要を報告します。

二 中央研修の主な内容

(一) 研修報告

林業普及指導員は、最新の知識や技術を学ぶため、国が行う研修を受講しています。今回は研修科目の中から、「木質バイオマスエネルギー利用研修」について報告がありました。この中で、薪、ペレット、チップ等の利用特性や発電又は熱利用の経済性などを学ぶことができました。

(二) 研究報告

研究員と林業普及指導員の情報



農林水産総合センター森林研究所河崎副所長の研究報告を熱心に聞き入る林業普及指導員

交換を目的に、農林水産総合センター森林研究所の林業研究室と木材加工研究室からそれぞれ一題ずつ報告がありました。また、その他の研究成果についてはポスターセッションで活発な意見交換を行い、理解を深めました。

① 林業研究室

「コンテナ苗と一貫作業システムに係る研究成果について」をテーマに片桐研究員から、コンテナ苗の特徴や一貫作業システムの経済性について報告がありました。

② 木材加工研究室

「岡山県における木材関連業界の成長産業化は可能なのか」をテーマに河崎副所長から、岡山県の市場の特性や今後の展望について報告がありました。

③ ポスターセッション

「列状間伐後の下層植生に関する研究」

西山専門研究員

「岡山甘栗に関する研究成果」

西山専門研究員

「県内におけるシカの生息状況の変遷」

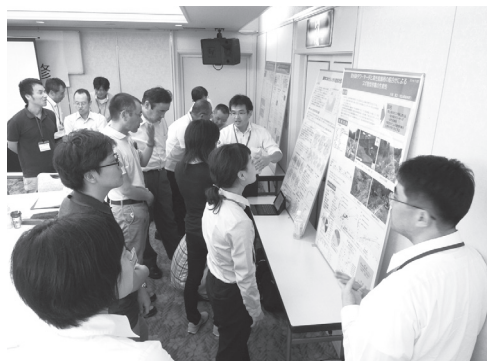
三枝専門研究員

「KONRAD社製タワーヤーダYARDER 3000による搬出作業」

片桐研究員

「岡山県産材の難燃化技術の開発」

金田専門研究員



研究成果のポスター前で意見交換を行う担当研究員と林業普及指導員

(三) 活動報告

農林水産総合センター普及推進課林業普及推進班から森林作業道作設オペレーター育成総合対策事業の研修状況について報告がありました。この中で、オペレーター

や指導者の育成状況、研修方法、研修の波及効果などを学ぶことができました。

(四) グループ討議

今回のテーマは「担い手の確保と定着」とし、4つの班に分かれて、ロジックツリーを用いた論理思考による問題解決方法を学びました。現在の雇用状況や就労条件を踏まえ、今後、どのように担い手に関する普及活動を展開するか熱心な議論が交わされました。



班ごとのプレゼンテーションに向けて試行錯誤しながらロジックツリーを作成

三 おわりに

県では、今回の研修や造林・間伐などの専門分野ごとに行う研修、職場内で行う研修などを通して、今後も林業普及指導員の資質向上に努めてまいります。

(林政課 普及指導班)

「岡山県みどりの大会
2016」の開催

秋のみどりの月間中である10月2日(日)、吉備中央町吉川にある「きびプラザ(さんさん広場及び3階大ホール)」において、「岡山県みどりの大会2016」を吉備中央町、(公社)岡山県緑化推進協会との共催で開催しました。

この大会は「森づくり県民税」を活用し、みどりの大切さを楽しみながら学ぶことで、森林をはじめとするみどりを守り育てていく心を培ってもらおうと実施したもので、みどりの少年隊等の子どもたちや関係者ら約500名が参加しました。



当日は、すがすがしい秋晴れとなり、同時開催された「RSKラジオ祭り」に来場された大勢の方も見守る中、盛大に執り行われました。

第1部

は緑化運動・愛鳥ポスターコンクールの表彰が行われ、第2部では、新規結成みどりの少年隊(新見市・塩城小緑の少年隊)への隊旗授与のほか、いんべ緑の少年隊による活動発表などが行われました。

午後からの「みどりわんぱく村」では、県キャンプ協会の指導のもと様々な自然体験活動が行われました。



丸太切り体験、ヒノキの板や木の実を使ったクラフトづくり体験、折り紙教室など、子どもたちは元気いっぱい楽しんでいました。この大会を通じて、子どもも大人もみどりや自然に親しみをもち、将来にわたって大切に守り育てる心を持っていただけることを願っています。

(環境文化部 自然環境課)

狩猟期間の注意事項

一 狩猟期間について

今年も11月15日から狩猟期間が始まります。終期は2月15日ですが、岡山県では、鳥獣による農林水産業への被害が深刻なことから、第二種特定鳥獣管理計画を策定し、現在、イノシシ及びニホンジカについては、3月15日まで猟期を延長しています。

二 狩猟等に伴う事故について

平成27年度は、岡山県内での死亡事故はありませんでしたが、環境省のとりにとめによりますと、全国で14件の事故が発生し、そのうち、1名の尊い命が失われています。

被害者は、一般人の方で、有害駆除中に竹藪が揺れるのをニホンザルと間違われて被弾したものです。

三 狩猟者が注意すること

狩猟者の方は、野山には一般の方々もいることをあらかじめ想定したうえで、法令やマナーを守り、十分な安全確認、猟犬の管理徹底を行い、事故・違反のないように安全狩猟をしてください。

特に銃猟を行う方は、獲物の確認と矢先の安全の確認をすること、射撃をするとき以外は必ず弾を抜くことを徹底してください。

四 狩猟事故に遭わないために

野山に入る場合や狩猟が行われる場所付近で間伐作業などをする場合は、目立つ服装を着用し、ラジオを流すなどして、自分の存在を知らせるように心がけてください。また、「林内作業中」の看板を設置するなど、狩猟者の注意を喚起するようにしてください。

わなやわなの標識を見つけた場合は、獲物が掛かっていることやわなが地中に埋設されていることなどがあり、危険ですので絶対に近づかないでください。

(農林水産部鳥獣害対策室)

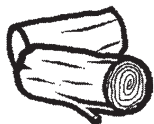
技能講習会の開催(12~2月)

※詳細は申込先にお問い合わせください。

名 称	会 場	日 程	申込・問合せ先
小型移動式クレーン運転	岡 山	1月26, 27日	(社) 岡山県労働基準協会 TEL (086) 225-3571
	津 山	2月22, 23日	
玉掛け	岡 山	12月1, 2日・1月14, 15日 1月19, 20日・2月9, 10日	
	津 山	2月20, 21日	
移動式クレーン運転士		1月24日	中国四国安全衛生技術センター TEL (084) 954-4661
はい作業主任者	倉 敷	11月30日, 12月1日	陸上貨物運送事業労働災害防止協会 岡山県支部 TEL (086) 234-1332

森林・林業関係イベント参加募集

開催日時	場 所	行事名称・内容	問合せ・申込先等
1. 21 (土) 9:00~15:00	真備美しい森 (倉敷市真備町市場)	竹林整備	倉敷地域森づくりの会 TEL (0866) 92-5600
2. 4 (土)	おかやま共生の森・柵原 (美咲町書副地内)	保育のつどい (間伐、きのこ植菌等の森林レク リエーション)	久米郡森林組合 TEL (0868) 66-0053
2. 18 (土) 9:00~15:00	高梁美しい森 (高梁市松山)	マツ林整備	NPO法人 フォレストフォーピープル岡山 TEL (0866) 22-1000
2. 26 (日) 10:00~13:00	草間台エコミュージアム センター (新見市草間)	きのこの植菌体験	〒719-2641 新見市草間 7471-1 草間台エコミュージアム推進協議会 ハガキで申し込み
2. 26 (日) 9:30~11:30	早島ふれあいの森公園 (都窪郡早島町矢尾)	間伐竹による工作教室	早島さくら千年委員会 TEL (090) 7135-7272



林 産 物 市 況



木 材 (10月27日)

単位：千円/m³

樹種	長さ	径 級	直 材	小 曲 り	樹種	長さ	径 級	直 材	小 曲 り
杉	3m	14～16	12	6.5	檜	3m	14～16	22	16
		18～20	12	6.5			18～20	18	16
		22～28	12	10			22上	16.5	13
	4m	18～22	10	8～		4m	14～18	18.5	9～
		24～28	10	8～			20～22	14.5	13.5
	6m	16～18	15	10			24～28	16	13.5
松	3m	18～22	10	8	6m	14～16	23	8～	
	4m	18～22	10	10		18～20	28	8～	
・出荷材積 約 1,400 m ³									
(共販所より概況)									
杉概況：					檜概況				
柱 材 横這い					【3m】 【4m】				
中目材 横這い					柱 材 弱含み 柱 材 横這い				
元 木 横這い					中目材 横這い 中目材 横這い				
					元 木 横這い 元 木 横這い				

資料：岡山県森連勝山木材共販所市況速報、価格は中値。

製 材 (10月)

単位：円

樹 種	寸 法	等級	区分	安値～高値
ス ギ	正角 3m 10.5cm 角	特 等	K	50,000 (直送)～55,000 (市場)
	正角 3m 12cm 角	特 等	K	50,000 (直送)～55,000 (市場)
ヒノキ	正角 3m 10.5cm 角	特 等	K	55,000 (背割有)～60,000 (背割無)
	正角 3m 12cm 角	特 等	K	55,000 (背割有・無)～60,000
マ ツ	平角 4m 10.5～12cm×15～18cm	一 等	K	75,000
米マツ	正角 3m、4m 10.5cm 角	特 等	G	52,000～54,000
	平角 3m、4m 10.5×15～21cm	特 等	G	54,000～
北洋アカマツ	タルキ 4m 3.8cm 角	特 等	K	70,000～75,000
ホワイトウッド	間柱 3m 2.7cm×10.5cm	特 等	K	55,000～

注1：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。

注2：区分のKとは人工乾燥材、Gとは未乾燥材のこと。

木を通して環境保全に貢献しています



公園修景施設・土木用資材
防腐処理・ログハウス・デッキ

さんもく工業株式会社
〒702-8045 岡山市南区海岸通2丁目6番3号
TEL 086-262-0137(代) FAX 086-262-0130

優良種菌で確かな収穫

もりのたねごま

◆シイタケ、ナメコ、ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。

製造 森産業株式会社
総発売元

岡山営業所 岡山市北区辰巳46-104
TEL 岡山(086)805-7033(代)

「緑の募金」 ご協力をお願いします

緑の募金でふせごう地球温暖化

募金期間
春のみどりの月間 4月1日～5月31日
秋のみどりの月間 10月1日～10月31日

口座振込はこちらへ

ゆうちょ銀行	01270-0-5225
中国銀行岡山駅前支店	1852041
トマト銀行岡山駅前支店	1027972

寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。

公益社団法人 岡山県緑化推進協会
岡山市北区錦町1-8 TEL・FAX (086)221-9511

日本植生は環境緑化技術を創造し、地球環境の保全に貢献します。

間伐材利用植生基材マット	間伐材利用植生マット	間伐材利用生分解型植生マット	間伐材利用生分解型植生シート	間伐材利用植生シート
グリーンフォーマット 〔切土軟岩用〕	森樹郎マット 〔切土土砂用〕	森樹郎マット21 〔切土土砂用〕	張りウッド 〔盛土用〕	ハリシバモック 〔盛土用〕

岡山県エコ製品

「岡山県エコ製品」の認定を受けた5品目
間伐材を有効利用した環境緑化資材です。

NETIS登録：CB-010046-A 間伐材利用植生マット工法「森樹郎(シンキロウ)マット工法」

太陽と緑の国づくり
Nihon 日本植生株式会社
<http://www.nihon-shokusei.co.jp/>
津山支店 / 津山市高尾573-1 TEL (0868) 28-0256
岡山事務所 / 岡山市北区芳賀5325 TEL (086) 294-1000

CT-500B・GP-532 小型ハイパワープロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

shindaiwa

YAMABIKO

高性能大型林業機械から電動工具まで何でも揃う

美津吉商事株式会社
津山市一方194 〒708-0883 TEL(0868)23-2255
<http://www.mitsuyoshi.com/>

—— 安全・人と自然・調和 ——

造林木を野生動物の食害から守る

〔野生獣類忌避剤〕 **コニファー水和剤** 〔幼令樹保護カバー〕 くわんたい
 〔樹皮食い防止に〕 **バークガード** 〔野生草食獣食害防止〕 **防獣ネット**
 〔クズ専用除草剤〕 ザイトロン・ザイトロンフレノック・ケイピンエース
 〔樹幹注入剤〕 マッケンジー注入剤
 (お問い合わせ申し込みは県森連・森林組合へ)

販売元：日植アグリ株式会社
 TEL：086-292-5525

大同商事(株)大阪営業所
 TEL：06-6231-2819



緑豊かな自然を守る

治山・林道事業の普及啓発、技術援助
 治山・林道の調査、測量、設計、積算
 森林整備・森林公園の総合計画

一般社団法人 岡山県森林協会

岡山市中区高屋 225-1 TEL 086-271-3711
 津山市二宮 1849-2 TEL 0868-28-9360

「もしも」に備えて・・・森林保険があります！

FOREST INSURANCE



森林保険

加入できる森林は？ 人の手が加わった森林
 加入期間は？ 1年単位で何年でも！
 保険金がでるのは？

火災、風害、水害、雪害、干害等気象災の損害があったとき、森林所有者に支払われます。

岡山県では過去5年間で約6千万円の保険金が支払われました。

ご契約のモデルケース (1haあたり)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…1年
 保険期間…5年 保険金額…最大188万円
 一括払いだと 21,225円 (5年間計)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…26年
 保険期間…5年 保険金額…最大299万円
 一括払いだと 37,375円 (5年間計)

1ヶ月あたり
 約350円

わずかおむすび
 3個分



1ヶ月あたり
 約620円

わずかラーメン
 1杯分



○保険金額を50%にすることにより、保険料を50%にすることも出来ます。

○条件によって契約金額が変わってきます。

○お申し込み、お問い合わせはお近くの森林組合まで。

平成二十八年十一月一日(第四五〇号)
(隔月一日発行)



緑あふれる環境づくり

株式会社 山都屋

本社 〒703-8273 岡山市中区門田文化町2丁目11番51号
TEL (086) 272-2161 FAX (086) 272-2142
http://www.yamatoya-net.com

大阪営業所 津山営業所 水島営業所

安心と信頼の証を届けます



創業以来、永年に渡り体育器具・遊具を製作してまいりました。地元メーカーとして責任ある製品作りに取り組み、安心と信頼を皆様にお届けします。

日本体操協会器械器具検定工場・日本公園施設業協会認定工場

OHKUBO 大久保体育株式会社

■本社 〒703-8214 岡山市東区鉄409 TEL (086) 279-0585 FAX (086) 279-0460
■倉敷営業所 〒710-0312 倉敷市藤戸町天城1021-1 TEL (086) 428-7576 FAX (086) 428-6153
■東京営業所 〒201-0003 東京都柏江市和泉本町1-21-1(201) TEL (03) 5761-9577 FAX (03) 5761-9587

皆伐・再造林促進支援事業のご案内

岡山県森林組合連合会



「伐って・使って・植えて・育てる」

～林業経営を応援します～



再造林費については ha 当り上限 10 万円、下刈り費は上限 5 万円を 5 年間助成します。

詳細につきましては、当連合会各支所又は最寄りの森林組合へご相談ください。

(※森林組合の連絡先等は岡山県森林ホームページにあります。)



編集発行

〒700-8750 岡山県林政課内 岡山県林業改良普及協会
岡山市北区内山下二一四一六

事務局からのお知らせ

●おかやま森の大使のマスコットキャラクターについて

今年の10月1日からおかやま森の大使として、桑原さんと坂井さんの新大使が活動をしております。協会では、この二人をモチーフとしたキャラクターを作成しましたのでお知らせします。

森林・林業に関する広告等のイメージアップに活用してください。なお、使用を希望される場合は、事務局までご連絡ください。



事務局では、会員の方からの紙面に対するご意見・ご要望やイベント情報等、身近な話題の投稿をお待ちしております。

また、新規会員も継続して募集しておりますので、よろしくお問い合わせは次のとおりです。

〒700-8507

岡山市北区内山下2-4-6

(岡山県庁林政課内)

岡山県林業改良普及協会

電話 086-2226-7451

FAX 086-2221-6498

【編集後記】

・寒くなってくると、体の動きが鈍くなりちよつとしたことでも怪我を起しやすくなります。山での作業の前には、準備体操などで十分に体をほぐしてから作業にとりかかるようにしましょう

・今年もあと少しとなりました。年始めに立てた目標は達成できたでしょうか?これから寒くなつていきますので、みなさん、風邪などひかないように、体調管理には十分気をつけましょう!

(M)



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。(間伐材10%+古紙70%)

R70